

# 項王の最期

## 司馬遷

鴻門の会より四年の歳月が流れる。この間に項羽は、劉邦を漢王に封じ、自らは西楚の霸王と号して天下の実権を握った。しかし、人々の心は次第に暴虐な項羽を離れて、寛容な劉邦に帰し、ついに楚と漢との勢力は逆転するに至った。

### (一) 四面皆楚歌す

紀元前二〇二年、項羽の軍は垓下（現在の安徽省宿州市靈璧県の南東）にあつて、漢軍に包囲された。

項王軍壁垓下。兵少食尽。漢軍及諸侯兵、  
圍之數重。夜聞漢軍四面皆楚歌。項王乃大



「項王の最期」参考地図

- 1 楚歌 項王の郷里、楚の国の歌をうたう。
- 2 壁垓下 垓下の城壁の中になたてこもる。
- 3 「大驚」とあるが、項王はなぜ驚いたのか。
- 4 何…也 なんと…であることよ。句法詠嘆の形。
- 5 帳中 とばりをめぐらした陣営の中。

驚曰漢皆已得楚乎。是何楚人之多也。項王  
則夜起飲帳中。有美人、名虞。常幸從。駿馬、名  
騅。常騎之。於是項王乃悲歌愴慨、自為詩曰、  
力拔山兮氣蓋世。時不利兮騅不逝。  
騅不逝兮可奈何。虞兮虞兮奈若何。  
歌數闋、美人和之。項王泣數行下。左右皆泣、  
莫能仰視。

(史記、項羽本紀)

- 5 悲歌愴慨 悲しげにうたい、憤り嘆く。
- 6 兮 語調を整える助字。読まない。
- 7 氣蓋世 盛んな気力は、世間の人々を圧倒する。
- 8 可奈何 どうすることができようか。  
句法「奈何」は、反語の形。
- 9 數闋 數回。「闋」は、歌が一曲終わること。
- 10 和之 項王の詩に合わせてうたう。 輔漢兵已略地、四方楚歌、声大王意氣尽、賤妾何聊生

▽訓読で注意する文字

是(是れ・是) 為(為る)  
兮(読まない) 莫(莫し)  
能(能く)

句法

…乎。「疑問」  
何楚人之多也。「詠嘆」  
可奈何。「反語」  
奈若何。「反語」

↓付録36ページ  
↓27ページ  
↓27ページ

### 学習のポイント

項王の詩の前半二句にはどのような気持ちが込められているか。

史伝●項王の最期